

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

**外部評価の結果**

**講評**  
 全体を通して(特に良いと思われる点など)  
 デイサービス等、利用したがない人の中には「歌や折り紙みたいな幼稚園の真似事はしたくない」と心の中で思っている事があるのではないが、同居している百二歳の私の母が何かかふる、そう漏らしていたから。高齢者が今まで生きてきた重みやプライドを本当の意味でしっかり保ちながら、役割を持って暮らして貰う為の工夫はまだまだ出来ていない。こういった観点から考えてみても、このホームの本格的な畑づくり、花や果物づくりは、実に素晴らしい。「年寄りが物を生産する。そして皆の役に立つ。育てる楽しみを感じる」こういった日々の満足度は何物にも変えがたい。他のホームでも同じような試みに出会った事があるが、職員の負担増で中々成功していない。どうか、これからも、家族、近隣の人々、ボランティア等の協力を上手にいただいて、この実践を長続きさせていただきたい。そして、園芸療法の県内の先駆的存在になって欲しいと願っている。  
 ひだまりの里病院からの入居の人が多く聞く。病院等多数の人と暮らす環境では、中々自分を表に出す事が出来ないのは当然のことであろう。何か言いたくても、やはり飲み込んで黙ってしまう事の方が多かったこのホームの利用者も、職員の常にそばに寄り添い気持を引き出そうとする姿勢に、徐々に心をほぐし、思いを語るようになっていく。「色んな事を遠慮なく言ってくれるようになって…」と喜ぶ職員の笑顔に、こちらの胸の内まで温かさが伝わってくる。

**特に改善の余地があると思われる点** 次のような提案をした  
 先代からの病院があって、といった長く深い繋がりがあってもないのに、この地域のこの施設を見る目は暖かいと感じる。それは、私がホームの道を尋ねた時の様子や日頃のかかわり、町内会との繋がりとから何う事が出来る。この土台を是非有効に利用して、仲良しになって欲しい。老人会、婦人会、子供会との繋がりが一つでも増えれば、双方に有意義ではないでしょうか。  
 このホームに入所後、心身の状況の改善が見られる利用者もあると聞くが、年々重度化していくのは否めない。こういった先々を見通してケアプランを立てていく為の参考に、一人ひとりのバックグラウンドから、今出来る事、訴えられる事など、誰が見ても一目で理解し易い「歴史ノート」を作っておかれるのはいかがでしょうか。  
 一人ひとりの希望や一寸した訴えを職員は敏感に受け止め、喜び、意に添う努力を良くしている。次の段階として、ほんの小さな訴えでも、少し大きく取り上げ、表に出す工夫を考えて見られてはいかがでしょうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目  
 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か  
 「利用者一人ひとりの力を知る。経験やその人の歴史を知る」事については、今のその人を見るだけでなく、家族ともよく打ち解けて、情報をたくさん得ようとする職員の努力が伺われたが、その情報を将来的に共有する為に見やすい形で残す為の工夫をして欲しい。  
 「私は音楽が好きである程度出来るけれど、田舎の人はあまり興味を示されないから教えて差し上げません」等、今言えてポイントとなるつぶやきもピックアップして記録していけば、何年後のケアに役立つのではないかと思う。言葉による表現がうまく出来なくても思いはずと残る。その時、その人の心の中に入り込んで共感し合う為今の情報が役立つのではないかと。  
 利用者の“今”の思いやレベルを尊重し、家族にも協力してもらって、お寺参りや公園、動物園などへのドライブ、一泊旅行を十分楽しんでいる。通りがかりの人も寄ってくる餅つき、歌のボランティアさんや保育園との交流も嬉しい。雛の節句の今日はプロ並みのハーモニカ演奏もあって、訪問者の私も一瞬時を忘れた。それぞれに役割も果たして、メリハリのある生き生きとした暮らしがここにある。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目  
 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。  
 全体を通して特に良い項目にもあてはまるが、このホームでは職員会議が毎月1回、全職員参加のもとに9時から11時まで定例的に実施されている。隣接してホームでもあるひだまりの里病院からの応援があるから出来ることではあるが、この事は確実な意思疎通、意見交換を可能とし、サービスの質の向上や問題発生に対しても、きっちりと対応出来る。この時間に避難訓練をしたり、リハビリ学習、運営規定についての学習等も実施されていて、このホームの基礎固めの要となっている。全員参加の会議は必要なのに実現出来ないホームが多い中めずらしい。また、開設以来職員の異動が殆んどないと言う事も素晴らしいことだ。この点もまれに見る例と言えよう。記録によると大きな事故に至る事は殆んどない。以上にあげたような理由の他に、職員に気付かれないまま出かけた人が、近所の人の連絡で大事に至らなかったと言う近隣の人のつながりや、日頃からの事故等に対する心構えが十分に出来ている事があげられよう。この事はインシデント・アクシデント報告書からよく伺える。

**事業所名** ひだまりの家

日付 平成18年3月31日  
 特定非営利活動法人  
**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援事業所介護支援専門員経験5年

**自主評価結果を見る**

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)**

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目  
 グループホームとしてめざしているものは何か  
 今日(3月3日)は雛の節句というのに外は雪が舞う。でも、このリビングは陽が射し込んで日だまりとなっている。「あつ、それでか」と私はこのホームの名前を頭に浮かべて膝を打った。正真正銘、今日のような日に在るのが、この「ひだまりの家」だ。  
 認知症の人への風当たりはまだまだ冷たい。以前から考えるとかなり良くなっているとは言え、まだ遠いという感じがするが、この家の中はあったかい。全室お日様の暖かさをいただけるからだけではない。職員の一人ひとりの利用者への思いの熱さが、ここの空気を暖めてくれている。  
 さんの居室にお邪魔したら、曾孫さんかと思えるかわいい写真がいっぱい。「違うよ、曾孫は十人あるけど、職員さんの子供で ちゃん。良く来てくれてな、おばあちゃん、て…」嬉しそう顔。  
 こんな笑顔を目指して、職員は日々より高く進もうとしている。グループホームならでの嬉しさがいっぱいある。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目  
 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		